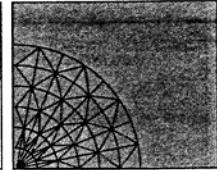


# モノグラフ・高校生'88

## vol.24 高校生の校内行動 —いごこちのよい心理的空間を求めて—



|             |      |
|-------------|------|
| 千葉大学助教授     | 明石要一 |
| 東京都立赤城台高校教頭 | 仁平正男 |
| 千葉県立上総高校教諭  | 畠山滋  |
| 埼玉県立越生高校教諭  | 三枝恵子 |
| 東京都立日野台高校教諭 | 木下勉  |

## 目次

|                                 |             |    |
|---------------------------------|-------------|----|
| 本報告書の要約                         | 明石要一        | 2  |
| 第I章 テーマ設定とサンプル構成                | 明石要一        | 4  |
| 1. 校内は心理的な安定の場か                 |             | 4  |
| 2. 調査サンプル                       |             | 5  |
| 第II章 高校生の一日の行動スタイル —校内行動を中心として— | 仁平正男        | 6  |
| 1. はじめに                         |             | 6  |
| 2. 登校から下校までの姿を追う                |             | 7  |
| 3. いごこちのよい時間と空間                 |             | 12 |
| 第III章 校内の仲間行動を追う —昼食、おしゃべり、電話—  | 三枝恵子<br>畠山滋 | 15 |
| 1. 昼食をめぐって                      |             | 15 |
| 2. 友人とのコミュニケーション                |             | 21 |
| 3. 校内での電話行動                     |             | 25 |
| 第IV章 逸脱的な志向をめぐって—持ちもの、外出、遅刻—    | 畠山滋         | 27 |
| 1. 学校へ持つもの                      |             | 27 |
| 2. 教科書の持ち帰りとロッカー内のもの            |             | 32 |
| 3. 登校後の外出                       |             | 35 |
| 4. 遅刻についての意識                    |             | 38 |
| 5. 学校差の背景にあるもの                  |             | 42 |
| 第V章 生徒の授業態度と教師観                 | 木下勉<br>明石要一 | 43 |
| 1. たいくつな授業中の行動                  |             | 43 |
| 2. 生徒が求める授業の進め方                 |             | 47 |
| 3. 軽くなった教師の存在                   |             | 49 |
| まとめに代えて                         | 明石要一        | 52 |
| 資料 調査票見本および基礎集計表                |             | 54 |

\*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

## 本報告書の要約



### 第II章 高校生の一日の行動スタイル

① 登校は1時間目のちょっと前が多い。そして休み時間や昼休みは、ほとんどの者が自分の教室ですごす。そして、すぐ相手は放課後部活動の友人（40%）がふえるものの、だいたいはクラスの友人である。そこで行動は、おしゃべりやゲームなどの室内遊びが中心となる。

② 下校時刻は大きく、「すぐ帰宅する組」（10人のうち5人）と「部活動に参加する組」（4人）に分かれる。すぐ帰宅するのは3年生と非進学校D校に多い。また、意外に少なかったのが、帰宅時の寄り道である。寄り道をする者はせいぜい2割ほどで、それも本屋やファーストフード店に入る程度である。

③ 生徒にとっていごこちのよい時間帯は、校内では「昼休み」と「休み時間」それに、「自習時間」である。それから、いごこちのよい空間、つまり出入りしやすい場所は、図書館（67%）、部室（59%）、それに職員室（49%）である。逆に、出入りしにくい場所は、校長室（60%）、事務室（42%）である。職員室が出入りしやすいベスト3に入っているのは意外である。教師がけむたい存在でなくなりつつあるのだろうか。

④ 昼食は母親の手作り弁当が8割もいる。しかし、非進学校は64%にとどまる。弁当は大半が自分の教室（9割）で同じクラスの友人（8割）と食べる。こうした傾向は進学校A校に強く、D校は自分の教室は7割に満たなくて、他のクラス、校庭に分散する。

⑤ 高校生はおしゃべりが好きである。おしゃべりの友人を持つ者は、99%である。そのおしゃべりは、休み時間、昼休みが多いが、授業中に6割をこえる者がしゃべっている。場所は、やはり教室を中心である。けれども廊下やトイレも無視できない。相手は、約8割が同じクラスの友人と4～6人で話している。

その内容は、「テレビ番組」（61%）、「授業」（53%）、「先生」（52%）、「進学・就職」（49%）である。

⑥ 意外にも高校生は校内の電話を使っていない。電話をほとんど使わない者が66%もいた。使った者でも「家にかける」がトップ

である。校内には話し相手が身近にいるので電話の必要がないのだろう。

#### 第Ⅳ章 逸脱的な志向をめぐって

① 生徒は学校へいろいろなものを持ってくる。その中でも弁当以外に多いのが、「テレフォンカード」(62%)、「くし、ブラシ」(55%)、「鏡」(32%)などである。そして女子のほうが持ちものは多いが、それらは「まじめな高校生」の範囲をこえていない。

② 手ぶらで登校する高校生をみかける。彼らは教科書などどうしているのだろうか。生徒は、教学や英語は6割をこえる者が持ち帰る。ところが、その他の教科書はロッカーなどに入れている。それからロッカーの中には、体育着、運動ぐつ、芸術教科の教科書が入っている。

③ 生徒の一日のうちで校外に出た回数が多い(8割をこえる)。その時間は「休み時間」や「昼休み」であるが、理由は「弁当を買うため」(62%)が大半を占める。これだけなら問題にならないが、「授業中にぬけ出す」(15%)や「なんとなくブラブラ」(28%)の者たちが少なからずいる。気になるところである。

④ 高校生に遅刻はつきものである。実際二学期中に1回も遅刻しなかった者は、34%にすぎない。6回以上が3割近く、21回以上という者も7%いる。

ところが、遅刻はしているものの遅刻に対する意識は、かなりまじめである。遅刻の原因を受験勉強やアルバイトに求めるのに賛成

しない。遅刻の責任を本人に求める傾向が強い。

⑤ 高校生は遅刻や校外へ出かけたりする者がいるものの、彼らの持ちものやロッカーの中身、それから遅刻に対する意見をみると、逸脱志向は、あまり強くない。

#### 第Ⅴ章 生徒の授業態度と教師観

① 高校生はたいいくつな授業のとき、さまざまな行動をとる。その中でも、「ひじをつく」(88%)、「寝る」(73%)、「窓の外などよそみをする」(63%)がベスト3である。

たいいくつな授業中、教室をぬけ出す者、友だちとゲームをする者は1割に満たない。授業から積極的に逸脱する者は少ない。

② 高校生はどんな授業の進め方がよいかに対して判断を保留している。しかしほっきりしているのは、教師の温かい一言や授業態度にうるさくない、という要望である。

③ 生徒が教師の存在を気にするのは、授業中の行動である。例えば、生徒のあて方(指名)、板書の字などである。生徒は教師の持っているバッグやネクタイの柄など外見には興味を示さない。

④ ニックネームで呼ばれる教師が少なくなっている。しかも、生徒集団の中で共有できるニックネームが少ない。さらに、教師の名前をもじったニックネームが多く、呼ぶときは「親しみ」をこめている。

教師と生徒の関係がタテ関係からヨコの関係に移りつつあるようだ。

#### 〔調査概要〕

対象・首都圏の4高校1~3年生

期間・昭和62年10月~11月

方法・学校通しによる質問紙調査

# 第Ⅰ章 テーマ設定とサンプル構成



## 1. 校内は心理的な安定の場か

中・高校生になると一日のうちの大半を学校の中ですごす。もし、彼らが部活動に入っているならば、家はただ寝に帰るほどになる。それほど、学校での空間が生徒の大きな意味をもってくる。

ところが、高校生が校内でどんな行動をとり、彼らにとってどんな空間がもっとも安定しているか、の研究は少ない。

もう少し具体的にいえば、朝何時頃登校し、休み時間や昼休み、それから放課後、どのようにすごしているか。また、友人や教師、そ

れに授業は生徒にとってどんな意味をもっているか、がはっきりしていない。

その意味で、高校生の校内行動は、ブラックボックスであったのである。したがって、今回の研究は、生徒の校内での行動を一つは一日の行動という形で時間的に細かく追った。もう一つは、昼食やおしゃべり、それに授業という空間に焦点をあて、どこが彼らの心理的に安定した空間になっているか、明らかにした。

## 2. 調査サンプル

高校生の校内行動を扱う場合は、学校の種類はやはり無視できない。遅刻が多く校門に教師が立つ学校もある。あるいは、遅刻や出欠にそれほどきびしくない学校もある。学校によって、生徒の校内行動は異なる。

そこで、本調査のサンプルは、進学校2校

(A校、B校)と進学校をめざしている学校C校、それから非進学校D校の4校を選んだ。4校とも首都圏の公立である。調査は、昭和62年10月から11月にかけて実施した。サンプル構成は、表1のとおりである。サンプル数は、2,150名である。

表1 サンプル構成

(人)

| 学年     | 年   |     | 性別  |       | 合計    |
|--------|-----|-----|-----|-------|-------|
|        | 1年  | 2年  | 男   | 女     |       |
| A 進学校  | 269 | 290 | 136 | 345   | 695   |
| B 進学校  | 138 | 178 | 0   | 204   | 316   |
| C 準進学校 | 138 | 137 | 125 | 189   | 400   |
| D 非進学校 | 375 | 207 | 157 | 449   | 739   |
| 合計     | 920 | 812 | 418 | 1,187 | 2,150 |

## 第II章 高校生の一日の行動スタイル

---

### ——校内行動を中心として——

---



#### 1. はじめに

---

「本校ではここ数年校内にマッチ棒1本、たばこの吸殻ひとつ落ちてたことはない。」「屋上を1週間も見まわらないと、バケツに半分も吸殻を拾うようです。」

日本全国にさまざまな高校がある。そこで学ぶ高校生の一日の学校生活は、全国ほぼ同じような生活時程、いわゆる時間割（表2）に沿ったものである。しかし、その裏側には種々様々なすごし方があり、焦点の当て方にによっては多様な行動スタイルが浮上してくるであろう。公立か私立か、男女共学か別学か、新設校か伝統校か、進学校か非進学校か、小規模校か大規模校か。地理的条件や時期も行

動を特色づける。幹線駅に近いか遠いか、冬期か夏期か、新学期か卒業期か。施設、設備となるとさらに影響は大きい。グラウンドや体育館は広いか狭いか、屋上は開放しているか閉鎖しているか、売店の有無。そして何よりも、学校の教育方針、指導態勢、校則、校風、伝統、地域の実態等々あらゆる人的、物的・自然的教育環境が生徒の多様な行動スタイルを形成しているといえよう。本報告は、首都圏にある普通科で共学校に通う生徒たちが、校内でどのように行動しているか、明らかにしてゆく。

表2 全日制普通科高校の標準的時間割

|        |             |
|--------|-------------|
| 予 鈴    | 8:25        |
| 1 時 限  | 8:30~9:20   |
| 2 時 限  | 9:30~10:20  |
| 3 時 限  | 10:30~11:20 |
| 4 時 限  | 11:30~12:20 |
| 昼 休 み  | 12:20~13:05 |
| 子 鈴    | 13:05       |
| 5 時 限  | 13:10~14:00 |
| 6 時 限  | 14:10~15:00 |
| *S-H-R | 15:05~15:15 |
| 掃 除    | 15:15~      |

\*ショートホームルーム（S-H-R）の時間は朝8:30~8:40か、2時限と3時限の間に持ってくる学校もある。

## 2. 登校から下校までの姿を追う

——インフォーマルな時間帯を中心に——

高校生の学校生活の時間帯（表2）を分けてみると、授業はフォーマルな時間、部活動、委員会活動、ホームルームなどはセミフォーマルな時間である。そして、教師や学校の目を離れた登校時、休み時間、昼休み、放課後、下校時等は、息抜きと安息のインフォーマルな時間帯といえる。本章では、そのインフォーマルな時間帯の生徒を追ってみよう。

まず登校時間からみてみよう（図1）。ほとんどの学校が「予鈴」の時刻を始業5分前に設けて（表2参照）、授業やホームルームに入る準備を促している。しかし実情は、駆けこみ型（現実には予鈴のチャイムがなっても走り出す生徒の姿は少ない）が、10人中4、

5人あり、上級生になるにつれて多くなっている。やはりぎりぎりに来る生活習慣の定着化、そして受験勉強による夜ふかしが関連してくるのだろう。受験と行動スタイルとは、とくに上級生の場合、さまざまな面で関わりが深いので、ここではこのくらいにとどめておきたい。

また一方、10人中2人は8:00前に登校しているのは、交通機関の関係や部活動（朝練と称する運動部の始業前の練習）のためと思われる。

次に、休み時間（2、3時間目の間）、昼休み、放課後の3つの時間帯をまとめてみた。  
表3のタイトルのように、「学校の中のど

ここで、だれと、なにをしてすごすことが多いか」を、それぞれの時間帯から1つずつ選んでもらった。その結果を、表3及び表4に示した。

学校という閉ざされた空間の中で、束の間の息抜きは授業中にもできる。しかし、先生の目から離れて、友だちと、あるいは一人で気分転換をはかる方法はおのずと決まってくるようである。

次の表4にまとめたように、健全だがだれもがみんなと同じことをしている姿（多数順応派）が浮かんでくる。「体育館裏や屋上で一服する」「校外に出て飲み食いする」という姿は、この結果からは具体的にはでてこない。この点については、第IV章でくわしくみてゆくことにしたい。

次に下校時刻についてみてみよう（図2）。前にみたように、ふつう下校時刻は3:10前後に設けられている高校が多いが、3年生の33%が3:15前に下校しているのは、選択授業の関係（3学年に選択科目を置いて、選び方によっては5、6時間目に帰宅できる）と思われる。5:00以降の下校では、3年生が6%に対し、1年生54%、2年生47%となる。1、2年生の大部分は部活動によるものであろう。

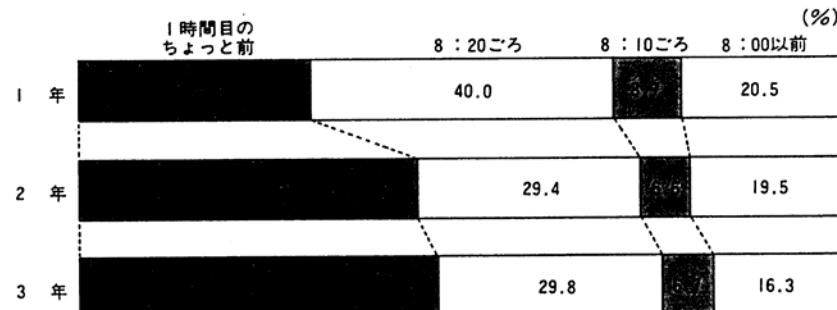
放課後の行動内容からまとめたものが次の図3である。すぐ帰宅する者が10人のうち5人、すぐ部活動に参加する者が4人、残り1

～2人が学校に残って勉強かプラプラしていると概括できようか。さらにこのいわば帰宅組と部活組に二極化した生徒たちを、属性面からみたのが次の表5である。

まず性別では、男女ともに帰宅組が部活組を上まわる程度で、大きな差はみられない。学年別になると、1、2年生は5割前後の生徒が部活動に参加している。とくに1年生は帰宅組より14%近く多いのが目につく。しかし3年生となると、部活動を止め、勉強に打ち込む姿が歴然としてくる（帰宅組74%）。3年生の2学期（本調査時期）ともなると、部活動中の者は3%強に激減する。成績面では「上の方から中」にかけての者に帰宅組が多く、とくに「上の方」は部活動不参加が目につく。公立高校ではよく、「浪人覚悟の高校生活だから、部活動に打ち込む」という生徒自身の声なき声も聞かれる。が、やはり「文武両道」の生活は「言うは易く行うは難し」の感はまぬがれない。学校間にみられる違いでは、B校とD校が対照的な数字を示している。ここでは、B校は4校中最も交通の便に恵まれ、D校はあまり電車の本数の多くない支線駅から通う学校であることを指摘するだけにとどめたい。

最後に、学校を出て帰宅するまでの「寄り道行動」をみてみたい。表6の1～6項目からいくつ選んでもよい形式をとったので、家

図1 登校時刻



に着くまで寄り道をしない者が、学年を問わず80%近くいる。これはふだんは道草をしないが、ときどきは本屋にも寄るし(35%)、マクドナルドやロッテリアにも入り(22%)、ときには喫茶店で学校でのおしゃべりの続き

をする(13%)者を含んでいると解したい。他方、常習行動ともいべき時間を食うアルバイト(8%)と予備校通い(7%)は80%組には入っていないと思ってよいだろう。

表3 どこでだれとなにをしてすごすか

| 項目         |               | 2時間目と3時間目の休み時間 | 昼休み    | 放課後(下校するまで) | 項目            |                | 2時間目と3時間目の休み時間 | 昼休み    | 放課後(下校するまで) | (%) |
|------------|---------------|----------------|--------|-------------|---------------|----------------|----------------|--------|-------------|-----|
| 1. 自分の教室の中 | 1. リンガ・週刊誌を読む | (85.3)         | (61.3) | (31.2)      | 2. 小説を読む      | 2.0            | 2.7            | 0.8    |             |     |
|            | 2. 他のクラスの教室の中 | 2.3            | (6.0)  | 3.9         |               | 0.7            | 1.8            | 0.4    |             |     |
|            | 3. 部下         | (4.6)          | 3.4    | 7.7         |               | 3. 演奏の準備・宿題をする | 3.0            | 2.8    | 2.4         |     |
|            | 4. 部上         | 0.5            | 2.3    | 1.0         |               | 4. 音楽を聞く       | 0.6            | 0.7    | 0.4         |     |
|            | 5. 中庭・裏庭      | 0.2            | 2.7    | 1.2         |               | 5. おしゃべりをする    | (66.0)         | (50.9) | (30.9)      |     |
|            | 6. グラウンド      | 0.2            | 5.3    | (14.1)      |               | 6. トイレで用をたす    | 3.5            | 1.2    | 0.9         |     |
|            | 7. 特別教室       | 0.3            | 1.8    | 2.3         |               | 7. 教室の移動をする    | 0.6            | 0.1    | 0.1         |     |
|            | 8. 体育館        | 0.1            | 2.2    | 10.3        |               | 8. スポーツをする     | 0.4            | (7.9)  | 7.8         |     |
|            | 9. トイレ        | (5.1)          | 1.9    | 0.9         |               | 9. ただがーーとしている  | 3.5            | 2.1    | 3.6         |     |
|            | 10. 職員室       | 0.3            | 0.3    | 0.4         |               | 10. 部室         | (4.2)          | 1.9    | 1.4         |     |
| 2. 外部      | 1. 部室         | 0.1            | 3.5    | 9.8         | 3. ラジオ・テレビを見る | (7.5)          | (11.0)         | 2.2    |             |     |
|            | 2. 図書館        | 0.1            | (5.4)  | 2.5         |               | 3.9            | 7.7            | 3.8    |             |     |
|            | 3. 公園         | 0.9            | 3.9    | (14.7)      |               | 4.0            | 5.4            | (32.8) |             |     |
|            | 4. 本屋         | (12.4)         | 7.0    | 8.2         |               | 0.0            | 0.2            | 0.3    |             |     |
|            | 5. デパート       | (80.1)         | (69.2) | (34.1)      |               | 3.7            | 2.4            | 1.6    |             |     |
|            | 6. ホテル        | (4.6)          | (11.9) | (13.3)      |               | 0.4            | 1.2            | (10.6) |             |     |
|            | 7. レストラン      | 1.7            | 1.8    | 2.1         |               |                |                |        |             |     |
|            | 8. 喫茶店        | 0.8            | (8.9)  | (40.2)      |               |                |                |        |             |     |
|            | 9. マクドナルド     | 0.0            | 0.6    | 1.1         |               |                |                |        |             |     |
|            | 10. ロッテリア     | 0.4            | 0.6    | 1.0         |               |                |                |        |             |     |

( ) = 1~3位

表4 [表3]のまとめ——多数派と少数派——

(%)

|      |       | ど こ で                          | だ れ と                                      | な に を し て                               |
|------|-------|--------------------------------|--|---|
| 休み時間 | 多 数 派 | 自 分 の 教 室 85.3                 | 同 じ クラス の 友 人 と 80.1                       | お しゃ べ 里 を す る 66.0                     |
|      | 少 数 派 | ト イ レ 5.1<br>廊 下 4.6           | 一 人 で 12.4<br>他 の クラス の 友 人 と 4.6          | ゲ ゲ ム (ト ラ ン ブ な ど) 7.5<br>寝 る 4.2      |
| 休み時間 | 多 数 派 | 自 分 の 教 室 61.3                 | 同 じ クラス の 友 人 と 69.2                       | お しゃ べ 里 を す る 50.9                     |
|      | 少 数 派 | 他 の クラス の 教 室 6.0<br>図 書 館 5.4 | 他 の クラス の 友 人 と 11.9<br>部 活 動 の 友 人 と 8.9  | ゲ ゲ ム を す る 11.0<br>ス ポ ー ツ を す る 7.9   |
| 放課後  | 多 数 派 | 自 分 の 教 室 31.2                 | 部 活 動 の 友 人 と 40.2<br>同 じ クラス の 友 人 と 34.1 | 部 活 動 を す る 32.8<br>お しゃ べ 里 を す る 30.9 |
|      | 少 数 派 | そ の 他 14.7<br>グ ラ ウ ン ド 14.1   | 他 の クラス の 友 人 と 13.3                       | 校 外 に 出 る 10.6                          |

図2 下校時刻

(%)

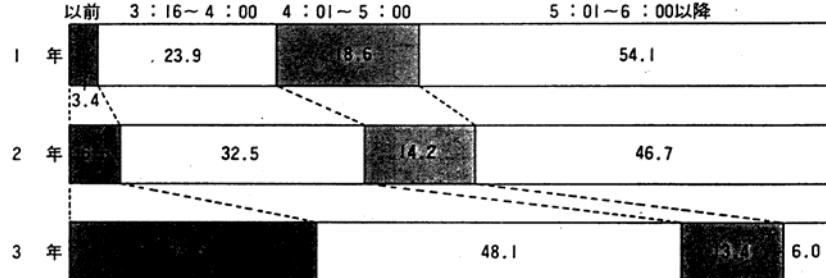


図3 放課後の行動——帰宅か部活か——

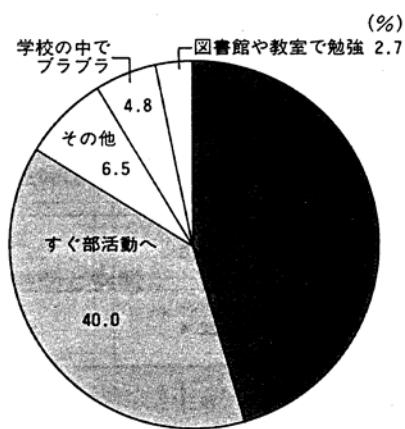


表5 放課後行動の二極化  
——帰宅組・部活組×属性——

|       |      | 帰宅組 (%) | 部活組 (%) |
|-------|------|---------|---------|
| 性別    | 男 子  | 46.7 >  | 40.7    |
|       | 女 子  | 45.7 >  | 38.9    |
| 学年    | 1 年  | 38.0 <  | 51.8    |
|       | 2 年  | 40.3 <  | 46.4    |
|       | 3 年  | 74.4 >  | 3.4     |
| 家庭の状況 | 夫の有無 | 51.8 >  | 34.5    |
|       | 夫の有無 | 44.6 >  | 39.0    |
|       | 夫の有無 | 47.0 >  | 39.8    |
|       | 夫の有無 | 42.8 <  | 43.3    |
|       | 夫の有無 | 45.8 >  | 40.5    |
| 学年    | 高学年  | 36.8 <  | 51.8    |
|       | 中学年  | 26.5 <  | 62.2    |
|       | 低学年  | 44.2 >  | 40.4    |
|       | 低学年  | 63.4 >  | 19.9    |

表6 寄り道行動と常習行動(複数回答)

| 項目               | 全 体  | 男 子  | 女 子 | (%)  |
|------------------|------|------|-----|------|
| 1. まっすぐ帰宅        | 77.6 | 73.9 | <   | 82.3 |
| 2. 本屋でマガジンを購入する  | 35.0 | 35.7 | >   | 34.2 |
| 3. ファースト・フード店に入る | 22.4 | 18.9 | <   | 26.5 |
| 4. 友人と喫茶店に入る     | 12.7 | 11.0 | <   | 14.5 |
| 5. フルバイトに行く      | 7.8  | 8.0  | >   | 7.5  |
| 6. 読や子供校へ行く      | 6.6  | 5.9  | <   | 7.3  |

### 3. いごこちのよい時間と空間

——学校は息抜き・家庭は安息の場か——

前節では「インフォーマルな時間帯」における生徒の校内行動をみてきた。それでは生徒にとって具体的にどんな時間と空間がいごこちがよいのだろうか。

表7は「とても楽しい」から「せんぜん楽しくない」までの4つのうち、「とても」と「かなり」を合計した数値である。項目内容では、①③④⑥⑨は学校生活に関わり、その他は家庭生活に関わるものになっている。

一見して気づくのは、学校ではやはり友人、仲間といっしょの昼休みの弁当時間、休み時間（自習時間は休み時間の一種とみてよいだろう）が上位を占めていることである。友だちといっしょにいて、おしゃべりをし、しかも食欲も満たしてくれるパターンが昼休みに集約される。一方、家庭では一人でいるとき——「ふとんに入ったとき」「自分の部屋に

いるとき」が上位を占める。あえて概括すれば、次のようになる。家庭では家族の目の届かない時間と空間に安息を見いだす。学校に来ては、教師の目を離れ、気の合う仲間のいる時間と場所に息抜きを見いだす。そして、全般的には男子よりも女子が、そうした雰囲気に安らぎを感じる者が多い。学年では上級生になるに従い、この種のいごこちのよさを失っていく。受験勉強との連動といってよいのである。

最後に、図4は学校内で生徒が「出入りしやすい」「出入りしにくい」と思っている場所をまとめたものである。調査前の予想では、「出入りしやすい場所」として、部室、生徒会室、「出入りしにくい場所」として、校長室、職員室を考えていた。結果は図表のとおりとなったが、次のように推論できる。

- (1) ふだん接する機会の少ない職員のいる事務室、用務員室は入りにくい。
- (2) 「成績」と直接関係のない教師のいる部屋には一般に入りやすい(図書室、保健室)。また、こうした部屋は小・中学校時代から出入りに慣れている。
- (3) 最近の職員室には大勢の教師は在室せ

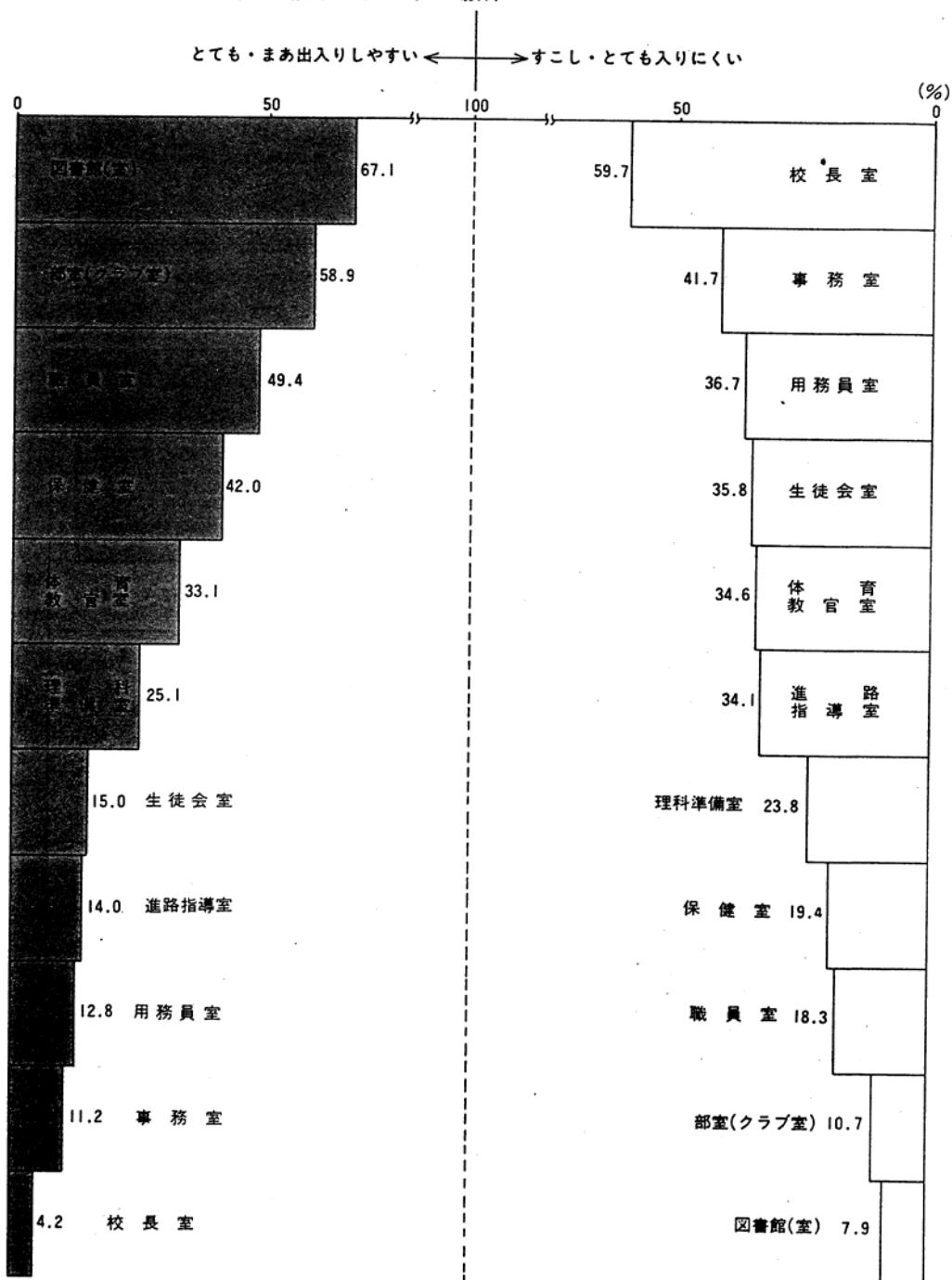
ず、むしろ教科研究室や準備室に分散している。そのため、生徒には心理的圧迫感が少ないので出入りしやすい。

(4) 自分たちの代表のいる生徒会室には敬して遠ざかる傾向がある。生徒会は直接関わりを持つ生徒以外には関心がうすいようである。

表7 いごこちのよい時間と空間

|                   | 全 体  | 男 子         | 女 子         | 1 年         | 2 年           | 3 年 | (%) |
|-------------------|------|-------------|-------------|-------------|---------------|-----|-----|
| ① 昼休みに弁当を食へるとき    | 63.5 | 54.2 < 75.0 | (71.3)      | 60.6        | 52.4          |     |     |
| 2. ふとん(寝床)にはいったとき | 62.0 | 57.8 < 66.8 | 58.9 (65.4) | 62.0        |               |     |     |
| ③ 休み時間            | 56.6 | 49.5 < 65.0 | (65.4)      | 54.2        | 42.4          |     |     |
| ④ 自習時間            | 50.2 | 51.6 > 48.4 | (53.6)      | 51.4        | 40.6          |     |     |
| 5. 自分の部屋にいるとき     | 49.9 | 46.9 < 53.6 | (53.5)      | 51.1        | 40.1          |     |     |
| ⑥ 部室(クラブ室)にいるとき   | 44.5 | 39.0 < 50.9 | 44.5 (48.1) | 37.1        |               |     |     |
| 7. 一日にはいったところ     | 38.5 | 34.9 < 43.1 | 37.5        | 38.5 (40.5) |               |     |     |
| 8. おとがみをするとき      | 38.0 | 37.2 < 38.8 | (40.5)      | 37.0        | 34.1          |     |     |
| ⑨ 教室で休むとき         | 20.1 | 19.6 < 20.8 | 19.4 (21.0) | 19.4        |               |     |     |
|                   |      | とても<br>楽しい  | かなり<br>楽しい  | すこし<br>楽しい  | ぜんぜん<br>楽しくない |     |     |
|                   |      |             | 1           | 2           | 3             | 4   |     |
|                   |      |             |             | %           |               |     |     |

図4 出入りしやすい場所・しにくい場所



## 第III章 校内の仲間行動を追う

### —昼食、おしゃべり、電話—



今回のテーマは、次のような疑問から出発している。「学校は、生徒にとって心理的安定の場となりえているのだろうか」この視点から過去のデータを見直すと、「学校生活でいちばん楽しいのは、友人とのコミュニケーション」という結果が目につく。第II章でも、

生徒は、学校内では友人とおしゃべりしながら弁当を食べているときがいちばん楽しい、と答えていた。そこで本章では、昼食、おしゃべりを中心に、生徒の校内での仲間行動を追ってゆくことにしたい。

### 1. 昼食をめぐって

まず、昼食についてみてゆこう。生徒は昼食をどのように用意するのだろうか。表8に示したように、「家族の作った弁当」が83%にのぼる。生徒の多くは、母親手づくりの弁

当を食べているらしい。性別でみると、男子では校内で調達するものが1割、女子では自分で作るものが1割となっている(表9)。高校生ともなれば、自立への準備として、自

自分で弁当を作る生徒が男女とももう少しいてもよいように思う。しかし、自分で作る生徒の中には、親が作ってくれないので、やむをえず自分で作っているケースも考えられる。結論は急がず、さらにデータをみてゆこう。

表10は、部活動に参加・不参加別にまとめたものである。不参加組は、「家族の作った弁当」の割合が参加組より10~20%少ない。これには、不参加組にD校の生徒が多いこととも関係がありそうなので、次に学校別のデータを見てみよう。

表11によると、進学校のA~C校では、昼食の9割は「家族の作った弁当」である。しかし、非進学校のD校では、64%にとどまる。そして、「学校で買った弁当」が19%、「自分で作った弁当」が11%にのぼる。A~C校で

は、これらの項目は2~4%しかない。D校の数値はきわめて高いといえよう。一般に、高校のランクが下がると、両親が深夜まで働いていたり、片親であったりするケースが増えるという。すると、D校のデータは、単に親が作った弁当を持ってくる生徒が少ない、という以上の意味があるように思える。母親手づくりの弁当を食べたくとも食べられない。こんな生徒の姿が、表11の背景にはあるのだろうか。

分析が少しづき道にそれたかもしれない。データの検討にもどうう。表12は、弁当を食べる場所をまとめてある。9割近い生徒は、自分の教室で食べている。そして、当然いっしょに食べる仲間はクラスの友人(80%)ということになる(表13)。

表8 昼食の種類

|          | (%)  |
|----------|------|
| 家族の作った弁当 | 82.9 |
| 自分で作った弁当 | 8.0  |
| 自分で買った弁当 | 5.2  |
| 途中で買った弁当 | 1.4  |
| その他      | 2.5  |

表9 昼食の種類×性別

|          | 男      | 女      |
|----------|--------|--------|
| 家族の作った弁当 | (83.9) | 81.8   |
| 自分で作った弁当 | (10.5) | 4.9    |
| 自分で買った弁当 | 0.7    | (10.7) |
| その他      | 1.4    | (1.5)  |

表10 昼食の種類×部活動参加別

(%)

|                | 運動部で<br>熱心に参加 | 運動部で<br>あまり<br>熱心でない | 文化部で<br>熱心に参加 | 文化部で<br>あまり<br>熱心でない | 以前は参加<br>今は不参加 |
|----------------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|----------------|
| 家族の作った弁当       | 90.7          | (91.0)               | 86.1          | 79.5                 | 70.5           |
| 学校で買った弁当(パンなど) | 5.2           | 1.9                  | 5.4           | 8.3                  | (16.6)         |
| 自分で作った弁当       | 2.5           | 6.2                  | 5.4           | (7.3)                | 5.6            |
| 途中で買った弁当       | 0.7           | 0.0                  | 1.5           | 1.6                  | (3.0)          |

表11 昼食の種類×学校別

(%)

|                | A 校  | B 校  | C 校    | D 校    |
|----------------|------|------|--------|--------|
| 家族の作った弁当       | 91.9 | 91.1 | (93.3) | 63.9   |
| 学校で買った弁当(パンなど) | 3.5  | 2.0  | 1.8    | (18.8) |
| 自分で作った弁当       | 2.7  | 3.1  | 1.5    | (11.0) |
| 途中で買った弁当       | 0.5  | 2.0  | 1.3    | (2.3)  |

表12 昼食場所

(%)

|     |      |
|-----|------|
| 自宅  | 86.9 |
| 学校  | 4.1  |
| 友人宅 | 1.5  |
| 駅   | 1.3  |
| 駅そば | 0.5  |
| その他 | 5.7  |

場所と仲間については、学校別の結果を図5、表14に示した。A校では、「自分の教室」に97%が集中している。一方、D校では、「自分の教室」は7割に満たない。「他のクラス」「校庭」等に分散する傾向がみられる。いっしょに食べる仲間についても、D校は「他のクラスの友人」が17%にのぼっている。自分の教室で、クラスメートと食べるスタイルだけが健全であるとはいえないであろう。しかし、学校によっては、友人の不和や、クラス内の力関係で、教室を追われるようにして他に昼食の場を求める生徒が相当数いるという。自分の帰属するホームルームで安心して昼食をとれない生徒が、図5、表14のデータに含まれているとしたら、大きな問題であろう。(なお、表14では、A校の「1人で食べる」が21%にのぼっている。この点は、次のデータとあわせて分析する。)

昼食について、最後にその回数を調べてみよう。「早弁」と聞くと、自らの経験を思い出される向きもあるかもしれない。定められた時間より早く食べるのだから、逸脱行動といえなくもない。しかし、食欲おう盛な高校生が、昼休みを待ちきれずに弁当をパクつい

ている姿は、どことなくほほえましい。さて、現代の高校生たちも、早弁をしているのだろうか。図6によると、生徒の6割が「昼食は1回だけ」と答えている。早弁派は24%、4人に1人となっている。2回食べる健啖家も13%いる。

これを属性別にみると、早弁は学年では2年生に、部活動では熱心な運動部員に多いことがわかる(表15、16)。学校別では、A校で45%もの生徒が早弁をしている(表17)。表14の結果からは、受験戦士の孤独な昼食かと思われた。実際には、個別に早弁をしているケースが多いだけなのかもしれない。

以上、高校生の昼食についてデータを追ってきた。全体的には、かなり健全な昼食の光景が明らかになったと思う。生徒の多くは、親が作ってくれた弁当を、昼休みにクラスの友人と食べている。しかし、進学校と非進学校の間には、大きな差がみられた。とくに、非進学校のデータからうかがえる生徒の人間関係の稀薄さ、複雑さは、彼らの人格形成に大きな影響を与えるであろう。なにより、教室内で食事がとれない生徒の学校生活が気になる思いである。

表13 昼食時の仲間

|         | (%)  |
|---------|------|
| 同じクラスの人 | 79.6 |
| 友人      | 11.7 |
| 他のクラスの人 | 5.6  |
| 自分      | 1.6  |
| 友達      | 1.1  |
| 友達の友達   | 0.4  |

図5 昼食場所×学校別

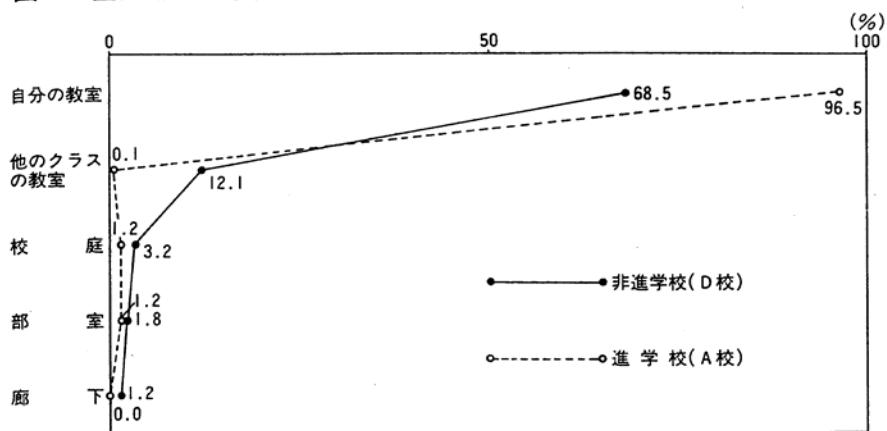


表14 昼食時の仲間×学校別

(%)

|                  | A校   | B校   | C校   | D校   |
|------------------|------|------|------|------|
| 同じクラスの友人         | 76.4 | 88.1 | 90.9 | 73.1 |
| 友人               | 21.0 | 7.7  | 6.3  | 6.4  |
| 他のクラスの友人         | 0.4  | 0.6  | 0.0  | 16.8 |
| 他の学年の人           | 1.2  | 2.3  | 2.5  | 1.5  |
| 先生の友人            | 0.9  | 1.0  | 0.0  | 1.6  |
| おじいちゃんやおばあちゃんの友人 | 0.1  | 0.3  | 0.3  | 0.6  |

図6 昼食の回数

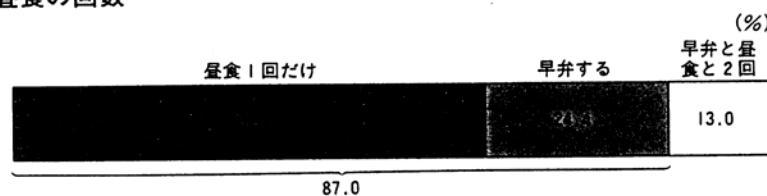


表15 昼食の回数×学年

(%)

|          | 1年     | 2年     | 3年   |
|----------|--------|--------|------|
| 昼食1回だけ   | (67.2) | 58.9   | 60.3 |
| 早弁する     | 16.8   | (31.6) | 26.7 |
| 早弁と昼食と2回 | (16.0) | 9.5    | 13.0 |

表16 昼食の回数×部活動参加

(%)

|          | 運動部で<br>熱心に参加 | 運動部で<br>あまり<br>熱心でない | 文化部で<br>熱心に参加 | 文化部で<br>あまり<br>熱心でない | 以前は参加<br>していたが、<br>現在は参加<br>していない |
|----------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|-----------------------------------|
| 昼食1回だけ   | 51.4          | 62.2                 | (70.7)        | 64.1                 | 69.2                              |
| 早弁する     | (36.1)        | 25.5                 | 16.9          | 22.0                 | 17.9                              |
| 早弁と昼食と2回 | 12.5          | 12.3                 | 12.4          | (13.9)               | 12.9                              |

表17 昼食の回数×学校別

(%)

|          | A校     | B校     | C校   | D校     |
|----------|--------|--------|------|--------|
| 昼食1回だけ   | 41.5   | 54.1   | 78.7 | (80.0) |
| 早弁する     | (44.7) | 26.0   | 14.9 | 13.6   |
| 早弁と昼食と2回 | 13.8   | (19.9) | 6.4  | 6.4    |

## 2. 友人とのコミュニケーション

### —「おしゃべり」を中心に—

以前、親しく話す相手がないからと、学校を去ろうとした生徒がいた。高校生活で話し相手がいることがいかに大切か、痛感させられる出来事だった。今回の調査においても、

おしゃべりをする友だちが

|      |       |
|------|-------|
| い る  | 98.6% |
| い ない | 1.4%  |

という結果を得た。98.6%という数値の高さは、生徒がいかに話し相手を求めているかをあらわしているともいえよう。以下、生徒の「おしゃべり」行動について、データを見てゆこう。

「いつ」

まず、いつおしゃべりをするか、たずねた結果をみよう（表18）。「休み時間」（95%）や、「昼休み」（89%）の数値が高いのは当然といえる。しかし、「授業中」も61%にのぼっている。設問は5項目中いくつ丸をつけてよい形にしたので、多少高い数値が出ることはある。しかし、6割をこえると、教壇に立つ者としては、やはり心に響くもの

が大きい。

これを学校別にまとめると、表19のようになる。やはり、「授業中」の数値に、進学校と非進学校の差がみられる。非進学校では、授業内容が直接進路に結びつかないので、生徒の授業への関心はどうしても薄くなる。表19の結果は、このへんの事情を反映しているといえよう。

「どこで」

生徒たちがおしゃべりを楽しむ場所について、表20にまとめた。やはり、教室が圧倒的である。男女別では、男子が「たまり場」「グラウンドのすみ」「裏庭」などが多く、女子は「廊下」「トイレ」が多い。男子は屋外で、女子は校舎内でといえなくもない。表20で少し気になるのは、女子のトイレの数値の高さである。トイレの順を待つ間に、仲のよい友人同士でおしゃべりを楽しんでいるようはよく見かける。しかし、生徒指導上の観点からは、トイレは一番にマークすべき場所である。喫煙、金銭強要、暴力などの逸脱行動が、

表18 おしゃべりの時間(複数回答)

| 場所   | 割合   |
|------|------|
| 休み時間 | 94.6 |
| 昼休み  | 88.9 |
| 授業中  | 83.1 |
| 放課後  | 77.1 |
| 休日   | 61.0 |

トイレという密室で行われる。むろん、今回「トイレ」と答えた生徒の多くは、単におしゃべりを楽しんでいるだけであろうが、ひと言つけ加えておきたい。

#### 「だれと」

次に、おしゃべりをする相手と人数をみよう。表21、図7にあるように、約8割が同じクラスの友人と、4~6人で話している。図表は省略したが、男女別、部活動参加別等で

も、ほぼ同様の結果が得られた。

#### 「何を」

おしゃべり行動の概要がだいぶ見えてきた。最後に「何を話しているか」、おしゃべりの内容を検討してゆく。表22に全体および男女別の結果をまとめた。もっとも話題となるのは「テレビ番組」(61%)で、以下「授業」(53%)、「先生」(52%)、「進学・就職」(49%)、「音楽」(45%)、「異性」(44%)と続く。

表19 おしゃべりの時間×学校別

|          | A 校  | B 校  | C 校  | D 校  | (%) |
|----------|------|------|------|------|-----|
| 休み時間     | 93.5 | 97.2 | 97.0 | 93.8 |     |
| 昼休み      | 89.8 | 89.6 | 90.5 | 86.8 |     |
| 弁当を食べるとき | 79.9 | 87.7 | 86.0 | 83.2 |     |
| 放課後      | 75.2 | 78.5 | 80.8 | 77.1 |     |
| 授業中      | 53.8 | 66.5 | 42.4 | 75.3 |     |

表20 おしゃべりの場所

|     | A 校  | B 校  | C 校  | (%) |
|-----|------|------|------|-----|
| 廊下  | 95.7 | 93.8 | 97.9 |     |
| 教室  | 57.6 | 50.0 | 67.1 |     |
| 宿題室 | 35.0 | 26.2 | 45.8 |     |
| 図書室 | 23.4 | 23.1 | 23.9 |     |
| 運動場 | 16.0 | 21.9 | 8.7  |     |
| 体育館 | 12.2 | 10.3 | 14.3 |     |
| 校庭  | 7.7  | 9.9  | 4.9  |     |
| 放課後 | 5.0  | 7.4  | 2.1  |     |
| 自習室 | 4.6  | 5.4  | 3.5  |     |

逆に、あまり話題にならないのは「わりと深刻な悩み」(19%)、「両親のこと」(15%)、「学校の規則」(11%)である。また、「学校の規則」を除き、すべての項目で女子の数値が高い。女子のほうが、さまざまな話題でおしゃべりが盛り上がっているようすがうかがえる。

おしゃべりの内容を学校別にみたのが、表23である。次の項目で、進学校と非進学校の間の数値がひらいている。

|        | 進学校    | 非進学校  |
|--------|--------|-------|
| 授業のこと  | 61~63% | > 34% |
| 先生のこと  | 56~61% | > 36% |
| 進学・就職  | 58~60% | > 28% |
| 芸能ニュース | 33~38% | < 47% |

大学進学をひかえた生徒たちは、当然学業に関わる話題が多くなる。一方、非進学校の生徒は、学業関係のことには興味が持てず、芸能界のニュースなどが話題にのぼることになるのだろう。なお、「音楽」「異性」「ファッション・ヘアスタイル」などは、学校間でそ

れほど大きな差はみられない。これらが、学校のランクをこえて高校生共通の関心事であることがわかる。

ところで、表23では「学校の規則」について、B校（進学校）がもっとも高い数値を示している。この項目は、規則や管理のきびしい非進学校で、高い数値がでると予測していた。しかし、D校の数字はB校を下まわり、進学校の間でも、3倍近いひらきがあった。この結果には、学校ごとの生徒指導の方針・態勢などが深く関わっていると思われる。学校のランクだけでは、単純に割り切れない一例といえるだろう。

以上、高校生のおしゃべりについて、データを検討してきた。その全体像は、昼食の場合と同様、とくに大きな問題はないように見える（授業中のおしゃべりの多さは除いて）。ただ、非進学校の生徒が授業や進路のことをおまり話し合っていない点は気がかりである。

表21 おしゃべりする友人

|          | (%)  |
|----------|------|
| 同じクラスの友人 | 82.3 |
| 部活動と同じ人  | 9.2  |
| 他のクラスの友人 | 7.3  |
| 同じ学年の人   | 1.0  |
| うかる学年の人  | 0.2  |

図7 人数

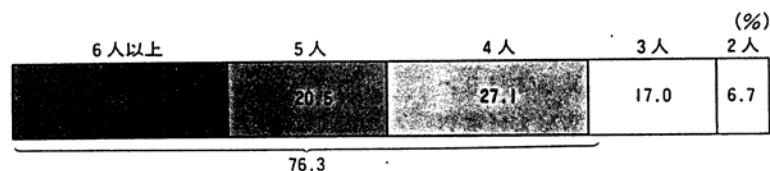


表22 おしゃべりの内容(複数回答)

(%)

|                  | 全 体  | 男 子    | 女 子    |
|------------------|------|--------|--------|
| 1. テレビ番組         | 61.3 | 57.6   | (65.7) |
| 2. 映画            | 52.8 | 50.2   | (56.0) |
| 3. 先生のこと         | 52.1 | 45.4   | (60.4) |
| 4. 音楽・歌謡         | 48.5 | 44.7   | (53.4) |
| 5. 音楽について        | 44.9 | 42.3   | (48.0) |
| 6. 異性について        | 44.0 | 36.9   | (52.7) |
| 7. 友だちとした話       | 39.7 | 26.4   | (56.0) |
| 8. 芸能界のニュース      | 39.2 | 31.7   | (48.2) |
| 9. ファッション・ヘアスタイル | 37.1 | 22.4   | (55.0) |
| 10. わりと深刻な悩み     | 19.3 | 14.0   | (25.7) |
| 11. 父親・母親のこと     | 14.5 | 8.4    | (21.5) |
| 12. 学校の規則        | 10.9 | (12.3) | 10.7   |

表23 おしゃべりの内容×学校別

(%)

|                 | A 校    | B 校    | C 校    | D 校    |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| 1 テレビ番組         | 51.2   | 66.8   | 59.1   | (70.1) |
| 2 お酒の話          | 62.0   | (62.7) | 60.6   | 34.1   |
| 3 先生のこと         | 60.1   | (61.1) | 56.1   | 36.4   |
| 4 モーニング娘について    | 57.9   | 58.2   | (60.3) | 27.5   |
| 5 音楽について        | 42.0   | (49.8) | 49.4   | 43.1   |
| 6 勉強について        | 40.0   | (51.9) | 44.9   | 44.1   |
| 7 らしさとした悩み      | 38.0   | 37.3   | (42.9) | 40.0   |
| 8 実能界のニュース      | 33.3   | 35.8   | 38.4   | (47.2) |
| 9 ファッション・ヘアスタイル | 34.6   | 33.2   | 36.4   | (41.8) |
| 10 友りと深刻な悩み     | 19.7   | 17.4   | 17.7   | (20.2) |
| 11 文親・母娘のこと     | (17.4) | 11.7   | 14.2   | 12.3   |
| 12 学校の規則        | 6.5    | (18.0) | 8.7    | 13.5   |

### 3. 校内での電話行動

最後に、校内にある公衆電話を、生徒がどのように利用しているか、みておきたい。どちらかというと閉鎖的な学校という空間にあって、電話は外の世界とつながれた貴重な情報伝達手段といえる。情報社会に生きる高校生は、校内でもこの便利な道具をいろいろ利用し、仲間行動のネットワークを形成しているのではないか。こう考え、いくつかの質問を設けたずねてみた。

しかし実際には、校内の電話をほとんど使わない生徒が66%を占めていた(図8)。かける時間帯も放課後や昼休みが主で、掃除中

や授業中にかけるものはわずかである(表24)。内容については、「家にかける」がトップで、「休んだ友人に理由やようすを聞く」は「1~2度」をあわせても3割に満たなかつた(表25)。

電話が生徒の校内行動で占める位置は、そういう大きいものではなかった。校内にはおしゃべりをする友人が大勢いる。校内での時間は、授業および友人とのコミュニケーションでは埋められる。いまのところ、電話は必要に迫られたときに使う程度、ということかもしれない。

図8 電話の利用度

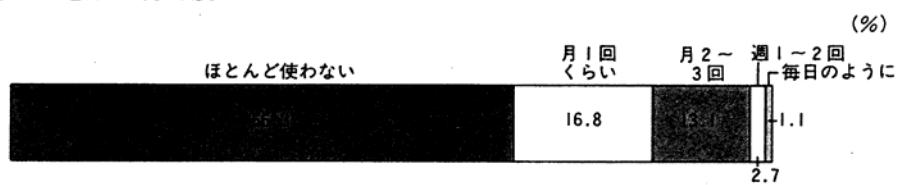


表24 かける時間

|         | よくかける | ときどきかける | ほとんどかける | ほとんどかけない |
|---------|-------|---------|---------|----------|
| 1 放課後   | 3.7   | 13.1    | 30.6    | 52.6     |
| 2 曜休み   | 3.3   | 12.0    | 25.0    | 59.7     |
| 3 休み時間  | 2.1   | 9.2     | 22.7    | 66.0     |
| 4 備除の時間 | 1.0   | 1.1     | 4.0     | 93.9     |
| 5 授業中   | 1.0   | 1.1     | 1.9     | 96.0     |

表25 電話の内容

|                   | ある           | 2度ある | 一度もない |
|-------------------|--------------|------|-------|
| 1 おしゃべり           | 12.5<br>63.2 | 50.7 | 36.8  |
| 2 他人との連絡や手づけをうながす | 4.9<br>29.7  | 24.8 | 70.3  |
| 3 他の人に放課後の用事      | 2.9<br>13.7  | 10.8 | 86.3  |
| 4 他の人の用事          | 2.5<br>12.2  | 9.7  | 87.8  |
| 5 他の人の連絡          | 2.5<br>11.9  | 9.4  | 88.1  |
| 6 他の人の連絡          | 0.7<br>4.4   | 3.7  | 95.6  |

## 第IV章 逸脱的な志向をめぐって

—持ちもの、外出、遅刻—



ここまでデータをみるとかぎり、校内での生徒たちの行動は、一応常識の範囲内におさまっているように見える。もちろん、模範的な優等生というわけでもないが、かなりまじめな生徒像が浮かぶ。こうなると、少しは逸

脱的な部分はないのか、気になってくる。

そこでここでは、模範的な学校生活から少しほみ出した部分にも焦点をあて、生徒の行動と意識を探ってゆくことにする。

### 1. 学校へ持ちこむもの

まず、生徒が学校に持ちこむものからみてゆこう。

教室には多少穀風景なイメージがある。それは、教室という空間が学習に必要なものだけで構成されているからであろう。テレビ、

オーディオセット、ポスター等は、自宅の個室にはあっても、教室にはまずありえない。学校とはそういうところだ、といつてしまえばそれまでだが、生徒からすれば、もう少し潤いがほしいところではないだろうか。そこ

で、学習には関係ないさまざまなもののが、教室に持ちこまれることになる。

表26は、22の品物をあげ、生徒に学校に持っていくかたずねた結果である。22項目の中で学校生活にどうしても必要なのは、「1弁当、4生徒手帳」くらいであろう。他の20項目は、少なくとも学習上は不必要的もので構成してある。

数値みてゆくと、全体的に「ふだん持つてゆく」と答えた割合はさほど大きくなない。過半数をこえたのは、1弁当(86%)、2テレフォンカード(62%)、3くし・ブラシ(55%)のみとなっている。

この3つの中では、テレフォンカードの数値の高さが目立つ。すでにみたように、生徒たちは、あまり学校から電話をかけていない。にもかかわらず、6割強がテレフォンカードを持っていた。おそらく、お気に入りのアイドルやキャラクターのカードを、定期入れなどの中に入れているのだろう。

くし・ブラシも、過半数の生徒が持っている。ファッショングやヘアスタイルが気になる年齢である。制服のさまざまな規定のす

きまをぬって、少しでもおしゃれをしたい気持ちが生徒には強い。この点を考えれば、55%という数字は当然であろう。そして、3人に1人が鏡を持ってきていることも納得できる。

しかし、その他のおしゃれに関わるアイテムの数値は、それほど高くない。コロン13%、化粧品10%が多少目立つ程度で、カーラー、整髪料、ドライヤーなどは、いずれも5%に満たない。(なお、私服が15%となっている。これはサンプル校に1校制服のない高校が含まれているため、数値が高めに出たものである。)

次に、音楽に関するアイテムみてゆこう。ヘッドホンステレオが18%で、22項目中7位につけている。ラジカセはさすがに低く、1%強に過ぎない。本シリーズのvol.15「高校生と情報行動」で、高校生にとって音楽がたいへん重要であることが指摘された。学校内では、昼の校内放送ぐらいしか、音楽に接する機会はない。少しでも音楽がほしい生徒にとって、ヘッドホンステレオは貴重な小道具であろう。ヘッドホンステレオの持ちこみ率

表26 学校に持っていくもの

—2人に1人はくし・ブラシ、3人に1人は鏡—

|             |      |               |      |              |     | (%) |
|-------------|------|---------------|------|--------------|-----|-----|
| 1.弁当        | 85.7 | 9.お守り         | 15.8 | 17.缶ジュース・コーラ | 4.2 |     |
| 2.テレfonカード  | 62.2 | 10.私服         | 14.8 | 18.カーラー      | 3.8 |     |
| 3.くし・ブラシ    | 55.0 | 11.マンガ        | 14.3 | 19.整髪料       | 3.0 |     |
| 4.生徒手帳      | 48.2 | 12.コロン        | 13.4 | 20.歯ブラシ      | 3.0 |     |
| 5.鏡         | 31.7 | 13.スナック・菓子    | 12.3 | 21.ドライヤー     | 2.0 |     |
| 6.アドレス帳     | 28.3 | 14.キャッシュカード   | 12.1 | 22.ラジカセ      | 1.1 |     |
| 7.ヘッドホンステレオ | 17.6 | 15.化粧品(ルージュ等) | 9.7  |              |     |     |
| 8.文庫本       | 16.2 | 16.トランプ等のゲーム  | 7.6  |              |     |     |

は、今後さらに上昇してゆくかもしれない。娯楽に関わるものでは、文庫本16%、マンガ14%、トランプ等のゲーム8%と、あまり数値の高いものはない。また、飲食に関わるアイテムも、スナック・菓子12%、缶ジュース・コーラ4%程度である。これは、学校によっては自動販売機や購買部で校内調達が可能、という事情もある。

他に数値が2桁に乗ったものに、キャッシュカード(12%)がある。5人に3人がテレフォンカードを持ち、さらに10人に1人はキャッシュカードまで持っていることになる。カード時代に生きる高校生の現代的側面を見る思いがする。

なお、表27に男女別のデータをまとめた。女子のほうがさまざまなものを校内に持ちこんでいることがわかる。

総じて、多くの生徒が持ちこんでいるのはくしと鏡程度であった。基本的にははじめな高校生の姿が浮かんでくる。

では、持ちこむもののデータを、学校別に分析してみよう。表28に結果をまとめた。A・B・C3校のあいだには、それほど大きな差は見られない。しかし、D校は他の3校とかなり異なる結果が出ている。(4校の属性については、第I章「調査サンプル」(P.5)を参照。)

D校は、22項目中13項目で持ちこみ率がトップとなっている。(私服もA校に制服がない点を考慮すると、実質的にトップといえる。)鏡は、他校が2~3割なのにに対し、D校では5割が持ちこみ、ヘッドホンステレオも4人に1人近い。マンガ、コロン、スナック・菓子

は、A・B・C校が1割を下まわるのに比べ、D校では3割近くにのぼる。化粧品、トランプ類、ジュース・コーラの数値もかなり高い。指導する教師たちの苦労が察せられるデータである。

しかし、単純にD校の生徒をせめることもできないように思える。「勉強ができる生徒ほど、学校生活が充実している。」この傾向は、中・高を問わず、モノグラフのシリーズで何度も確認されている。D校の生徒たちは、他の3校の生徒たちと比べ、勉強は苦手な生徒たちである。にもかかわらず、彼らは毎日登校し、形式上は進学校とさして変わらぬカリキュラムで授業を受けなければならない。D校の生徒たちにとって、学校生活で充実感を得るのは非常に難しいであろう。むしろ、ストレスがたまってゆく可能性が大きい。

こう考えると、学校に持ちこまれる各種のおしゃれアイテムや音楽テープ、飲食物は、D校の生徒にとって、ストレスを少しでも解消し、学校生活で心理的安定を確保するための道具に見えてくる。少なくとも、持ちこみを禁止したり、持ちこまれたを取り上げるだけでは解決しない問題のように思える。

なお、本筋からは多少外れるが、弁当の数値の差に注目しておきたい。D校は、他校に比べ10%ほど弁当を持ってくる生徒が少ない。この点は第III章でも触れられている。弁当を作ってくれる親がない。あるいは、朝、親が弁当を作れる状態がない。こんな事情から、弁当を持ってこない生徒が10%の差の中に含まれているのではないだろうか。わずか10%の差だが、何か重いものを感じる。

表27 学校に持っていくもの×性別  
—女子の方がさまざまなものを持ちこむ—

(%)

|           | 男の子  | 女の子    |
|-----------|------|--------|
| 文房具       | 80.8 | < 91.7 |
| 本         | 56.3 | < 69.2 |
| 文部省認定の教科書 | 32.4 | < 82.8 |
| 参考書       | 43.3 | < 54.6 |
| 辞書        | 15.7 | < 51.1 |
| 算用表       | 15.0 | < 44.5 |
| 算用計算機     | 18.6 | > 15.9 |
| 数学用具      | 13.9 | < 19.2 |
| 算用計算機     | 13.5 | < 18.8 |
| 算用表       | 18.0 | > 10.4 |
| 算用計算機     | 12.6 | < 16.1 |
| 算用計算機     | 5.0  | < 23.2 |
| 算用計算機     | 8.6  | < 16.6 |
| 算用計算機     | 14.0 | > 9.7  |
| 算用計算機     | 1.9  | < 19.1 |
| 算用計算機     | 7.9  | > 6.9  |
| 算用計算機     | 5.9  | > 1.9  |
| 算用計算機     | 1.7  | < 5.9  |
| 算用計算機     | 3.6  | > 1.9  |
| 算用計算機     | 2.2  | < 3.9  |
| 算用計算機     | 2.0  | > 1.6  |
| 算用計算機     | 1.4  | > 0.4  |

表28 学校に持っていくもの×学校別

(%)

|                | A 校    | B 校    | C 校    | D 校    |
|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 手帳          | 90.4   | 88.3   | (91.0) | 77.4   |
| 2. フラッシュカード    | 67.2   | (70.9) | 62.3   | 53.9   |
| 3. カセットテープ     | 48.5   | 57.3   | 55.4   | (61.2) |
| 4. 生徒手帳        | 43.4   | (68.0) | 60.6   | 38.2   |
| 5. 銀           | 19.6   | 23.1   | 28.7   | (50.5) |
| 6. アドレス帳       | (30.9) | 29.7   | 27.4   | 25.6   |
| 7. ヘッドホンステレオ   | 13.9   | 16.1   | 14.5   | (23.6) |
| 8. 文庫本         | (19.9) | 17.4   | 16.5   | 11.5   |
| 9. お守り         | 15.5   | 16.8   | (22.2) | 12.7   |
| 10. 私服         | (35.9) | 1.3    | 1.0    | 5.0    |
| 11. マンガ        | 6.8    | 7.0    | 8.0    | (27.6) |
| 12. コローン       | 6.1    | 3.8    | 8.7    | (26.7) |
| 13. スナック菓子     | 3.3    | 4.4    | 5.7    | (28.7) |
| 14. キャッシュカード   | 11.6   | (13.0) | 12.5   | 12.1   |
| 15. 化粧品        | 6.4    | 6.0    | 7.7    | (15.5) |
| 16. フラッシュゲーム   | 6.2    | 3.5    | 4.7    | (12.4) |
| 17. パソコン用キーボード | 2.0    | 3.2    | 0.5    | (8.8)  |
| 18. ラジカセ       | 0.6    | 1.9    | 0.5    | (9.4)  |
| 19. ハンディカム     | 2.0    | 2.8    | 1.0    | (5.0)  |
| 20. デジタルカメラ    | 1.6    | 1.9    | (5.2)  | 3.1    |
| 21. ポケットコンピュータ | 0.9    | 1.9    | 0.7    | (3.6)  |
| 22. ノートパソコン    | 0.4    | 0.6    | 0.5    | (1.9)  |

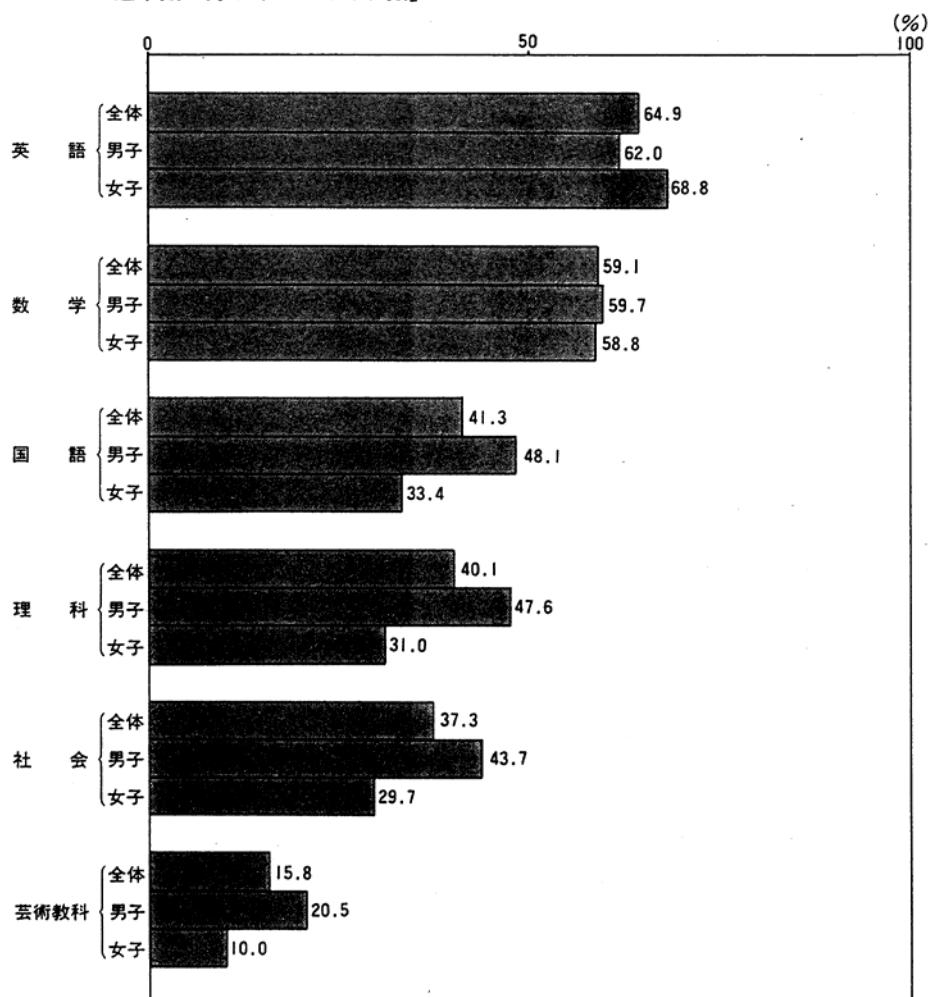
## 2. 教科書の持ち帰りと口ッカ一内のもの

朝の通学時間帯、駅や電車内で多くの高校生を見かける。その持ちものに注目すると、実にさまざまである。ぴかぴかの学生かばんを持つ生徒、何やらリュック状の袋を背負う生徒、スポーツバッグに部活の道具をつめこんでいる生徒等々。ところがよく見ると、明らかに弁当しか持っていない生徒や、手ぶら

の生徒がいる。彼らの教科書やノートはどこにいったのだろうか。

そこで、「必ず持ち帰る教科書は何か」たずねてみた。図9はその結果を示している。持ち帰る割合がもっと高いのは英語で、65%にのぼる。数学も6割が持ち帰っている。しかし、国語、理科は4割台になり、社会で

図9 必ず持ち帰る教科書  
—過半数が持ち帰るのは「英・数」のみ—



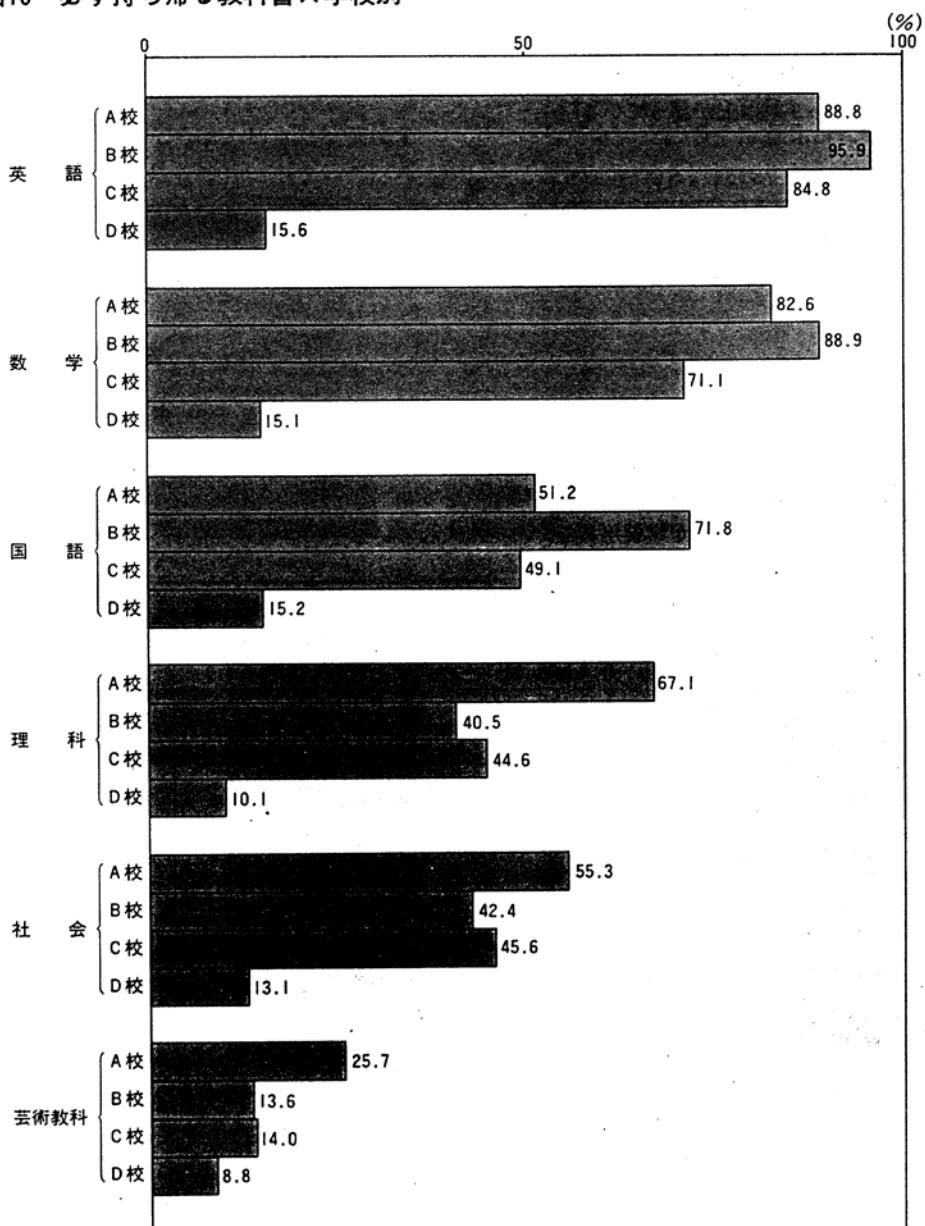
は持ち帰る女子が30%に達しない。学習内容が積み重ねで、予習・復習が重要となる英語数学は持ち帰る。しかし、試験前の暗記でなんとかなりそうな社会は、学校に置いておこうということだろうか。

このあたり、なかなか現実的な高校生の行動様式が見えてくる。もちろん、4割近い生

徒は、毎日はじめに教科書を持ち運んでいるが。

教科書について、学校別にみた結果を図10に示した。D校の生徒の持ち帰り率がかなり低くなっている。授業に必要なものはすべて学校に置き、家にはなるべく学校や勉強のにおいがするものを持ちこまないようにしてい

図10 必ず持ち帰る教科書×学校別



るのかもしれない。

では、生徒たちは、持ち帰らない教科書や学習用具をどこに置いているのだろうか。まず机の中、ついでロッカーが思い浮かぶ。図11からわかるように、生徒の9割以上が個人用ロッカーを学校に持っている。

そして、ロッカーの中には、主に体育着(78%)、運動ぐつ(60%)、芸術教科の教科書(41%)などが入っている。娯楽やおしゃれのための小道具はあまり入っていない(表29)。

主要5教科の教科書を入れている生徒は15%と少ない。やはり、よく使う教科書は机の中に入れておくのだろう。

表29には男女別のデータものせておいた。全体的に女子のほうがいろいろロッカーに入れている。女子が教科書をあまり持ち帰らない傾向は、すでに指摘した。生じて全員持ち歩く男子と、必要なものを要領よく選択して軽い女子という対比が浮かんでくる。

図11 個人用ロッカーの有無

—9割以上が持っている—

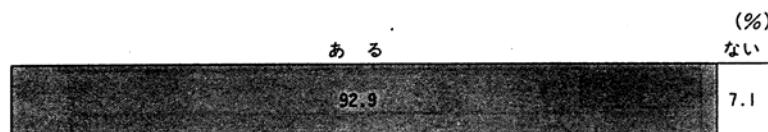


表29 ロッカー内に入っているもの

—女子のほうが学習用具をいろいろ入れている—

| 項目   | 全体   | 男子          | 女子 | 項目   | 全体  | 男子        | 女子 |
|------|------|-------------|----|------|-----|-----------|----|
| 教科書  | 78.3 | 75.0 < 82.3 |    | 文庫本  | 4.0 | 3.6 < 4.2 |    |
| 運動ぐつ | 60.0 | 59.7 60.7   |    | 筆記用具 | 3.0 | 2.5 < 3.3 |    |
| 文庫本  | 41.2 | 33.1 < 51.0 |    | 参考書  | 2.1 | 2.7 > 1.1 |    |
| 筆記用具 | 30.9 | 32.5 28.8   |    | 算用   | 1.8 | 2.4 > 1.0 |    |
| 参考書  | 24.2 | 17.6 < 32.3 |    | 算用   | 0.9 | 0.9 0.7   |    |
| 算用   | 17.5 | 13.1 < 22.8 |    | 算用   | 0.7 | 0.9 > 0.3 |    |
| その他  | 14.7 | 12.4 < 17.3 |    |      |     |           |    |

### 3. 登校後の外出

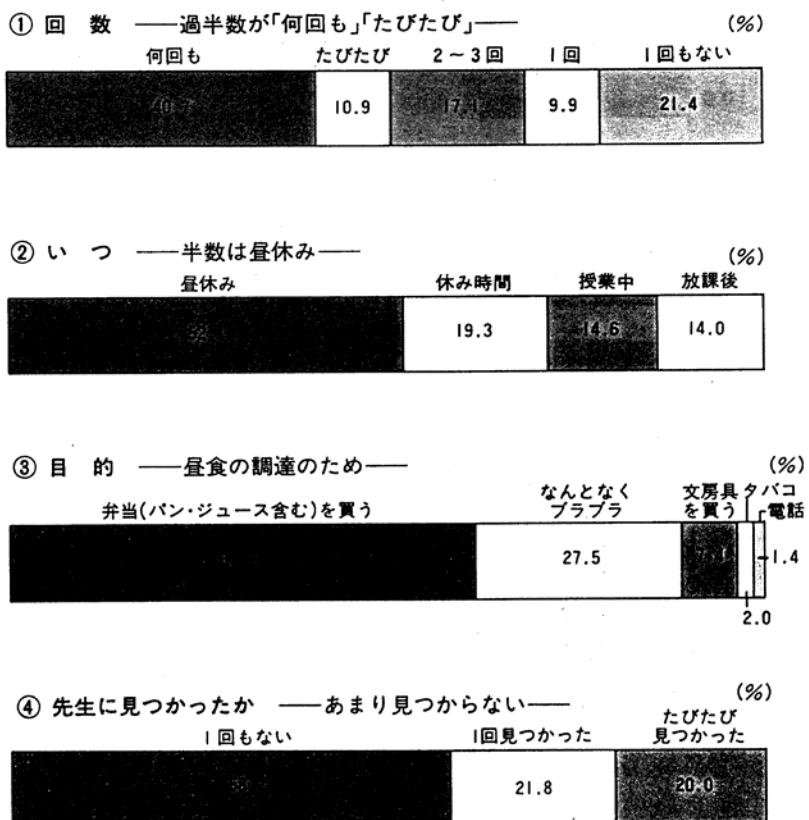
生徒は朝登校すると、とくに事情がない限り、放課後まで校外に出ないことになっている。校外に出るには、教師に届け出て、「外出許可証」を発行してもらわなければならない学校もある。一時期盛んであった「脱学校論」や「学校改革論」の中で、学校が「監獄」や「収容所」にたとえられたことを思い出す人もいるかもしれない。

では、実際に生徒たちは、ひとたび登校すると、放課後まで一步も校外に出ないのであるか。図12①を見る限り、そうでもないらしい

い。許可を得ずに校外に出た生徒は、全体の8割にのぼる。「何回も」と答えた生徒だけで、41%になっている。いったい生徒は、いつ、どんな目的で校外に出るのだろうか。

図12②によると、生徒が出かけるのは主に昼休み(52%)と休み時間(19%)で、合わせて7割を占める。③目的は、「弁当を買うため」が62%になっている。学校をぬけ出すといつても、その多くは昼休みに昼食を調達するためといえる。高校生ともなれば、この程度は容認されてもよい気がしないでもない。

図12 外出経験



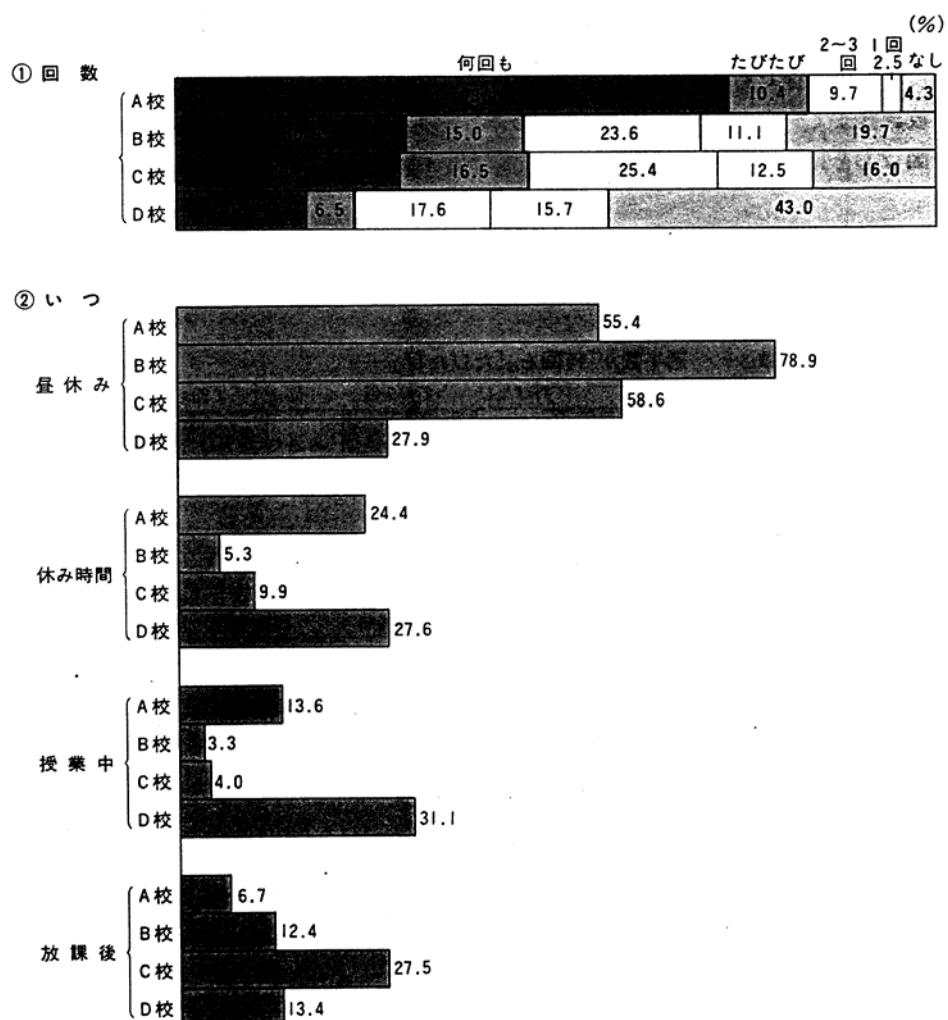
しかし、その一方で「授業中」の外出者が15%もいる。目的でも「なんとなくプラプラ」が28%にものぼっている。この点は大いに問題である。

図13に外出のデータを学校別にまとめた。外出回数をみると、A校がとび抜けて多い。B校、C校は大差ない。D校はかなり少なく、「1回もない」が43%にのぼっている。この回

数自体は、生徒の外出に学校がどんな姿勢でのぞむかが、大きく関わる。例えば、昼休み、校門に教師が立って生徒の出入りをいちいちチェックするか、それともフリー・パスかで、生徒の外出頻度は大きく変わらう。

そこで、重要なのは外出の内容（いつ、どんな目的で）になる。図13②をみると、B校は「昼休み」、C校は「放課後」の数値が他

図13 外出経験×学校別



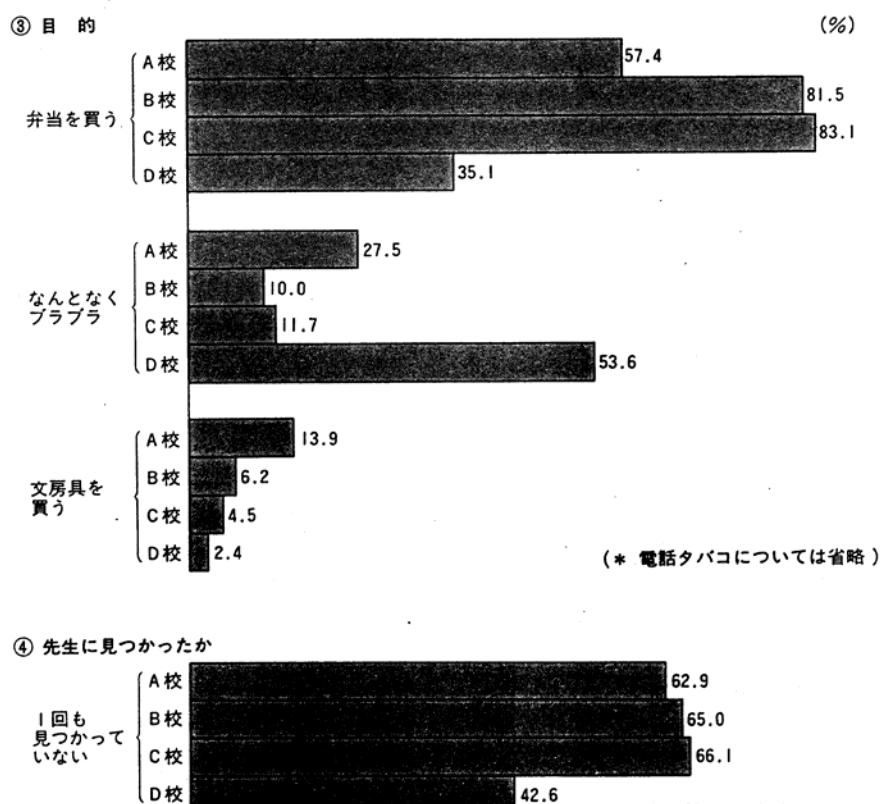
\*次頁へつづく

校に比べ高い。一方、A校とD校は「休み時間」「授業中」に外出する生徒が多い。とくに、D校の「授業中」31%が目立つ。D校で無断外出する生徒の3人に1人近くが、授業をエスケープしていることになる。さらに、③の「なんとなくプラプラ」をみると、D校は54%にのぼっている。

もともとD校は外出経験のある生徒が少な

い。したがって、「授業中」に外出し「プラプラ」しているといつても、一部の生徒に限られた話であろう。しかし、一連のデータからは、校内にさまざまなものを持ちこんでもなお学校に落ち着くことができず、校外へ出でていってしまう生徒の姿が見えてくる。これが高校間格差構造の中での現実なのであろう。

図13 外出経験×学校別



## 4. 遅刻についての意識

高校の教師が、生徒の遅刻に頭を悩ませている。こういうと、意外に思う読者もいるかもしれない。しかし実際には、大量の遅刻者が大きな問題となっている学校がある。

「今朝、ホームルームにいったら、10人も来ていないんですよ。」

「いいほうですよ。私のクラスなんか、10人しか来てませんよ。」

こんな笑えない会話が、職員室で交わされることもあるという。そこで遅刻について、生徒の行動と意識を調べてみることにする。

まず、生徒たちがどのくらい遅刻しているかをみておこう。図14からわかるように、2学期に入ってから1度も遅刻をしていないのは3人に1人、34%にすぎない。6回以上が3割近く、「21回以上」という剛の者も7%いる。男女別では、やや女子に遅刻が少ない。

図15には、学校別の遅刻回数を示してある。図から明らかなように、遅刻が多いのはA校とD校である。6回以上の割合をみてゆくと、A校35%、D校31%、C校18%、B校17%の順になる。A校の生徒がいちばん遅刻してい

図14 遅刻回数(2学期に入ってから)

——「1回もなし」は3分の1——

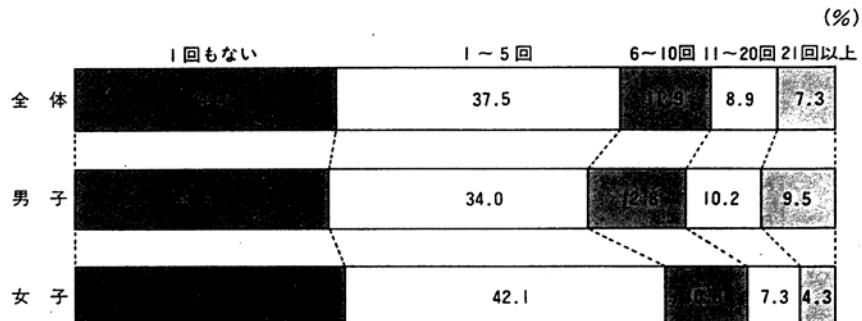
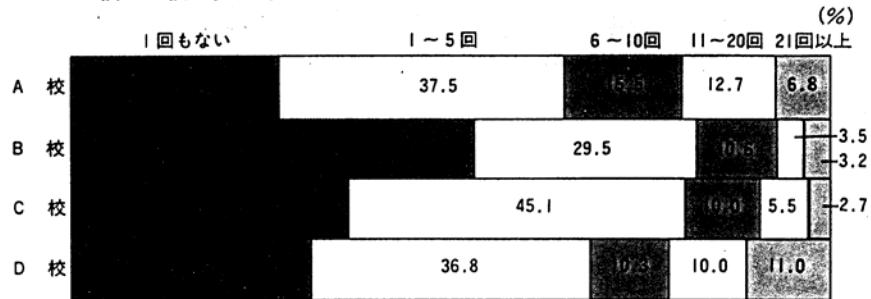


図15 遅刻の回数×学校別

—— A校とD校が多い——



るのは意外な気もする。外出頻度もA校が最も高かったことを考え合わせると、A校の生徒には、同じ進学校のB校、C校の生徒と違ったキャラクターを感じる。この点については、この章の最後で、もう一度考えてみたい。

表30は、遅刻について8つの意見をあげ、それぞれ「賛成」か「反対」かをたずねた結果である。全体的な印象を一言でいうなら、「生徒たちははじめである」ということになる。「1.『遅刻をするな』というからには先生も遅刻しないでほしい」は、人間としてごく自然な気持ちであろう。7割の生徒が「賛成」と答えたのも当然といえる。しかし「2.遅刻してしまうのは、結局自分の意志が弱いからだ」の賛成率は35%である。3人に1人以上が、遅刻は本人の責任と考えているのは、はじめな生徒が多いともとれる。「3.遅刻するのは魅力のない授業にも責任がある」も

「賛成」は35%にとどまっている。遅刻の責任を教師に求めるこの意見には、もっと賛成者が集まると予測していた。「意志の弱さ」と同じ水準におさまったのは、生徒の健全な良識のあらわれといえようか。さらに、遅刻の原因や責任に関する項目の数値を追うと、「4.家庭にも責任」「6.受験勉強、アルバイトによるならやむをえない」の賛成者は10%台にとどまる。生徒たちの中に、遅刻の責任を他に求める意識はあまりない、といってよいだろう。

一方、「5.50分授業で30分遅れたら、理由を問わず欠席」や、「8.遅刻3回で欠席1時間」といったやや強い処置に対しては、さすがに反対者が増える。(「反対」は5.51%、8.62%)

では、このデータを学校別にみてみよう(図16)。数値の出方は学校間で微妙な差を示し

表30 遅刻についての意見

|                                    | (%)  |           |      |
|------------------------------------|------|-----------|------|
|                                    | 賛成   | どちらともいえない | 反対   |
| 1. 生徒に「遅刻をするな」というからには先生も遅刻しないでほしい  | 70.0 | 23.0      | 7.0  |
| 2. 遅刻してしまうのは、結局自分の意志が弱いからだ         | 35.2 | 46.2      | 18.6 |
| 3. 遅刻してしまうのは魅力のない授業をする先生による原因がある   | 35.2 | 45.4      | 19.4 |
| 4. 遅刻してしまったのを理由で30分以上遅れたら、理由を問わず欠席 | 15.9 | 51.6      | 32.5 |
| 5. 50分授業で30分遅れたら、理由をりかんを問わず欠席      | 15.9 | 33.1      | 51.0 |
| 6. 受験勉強、アルバイトによるならやむをえない           | 12.3 | 34.7      | 53.0 |
| 7. 遅刻3回で欠席1時間                      | 11.4 | 23.0      | 65.6 |
| 8. 遅刻3回で欠席1時間以上                    | 10.0 | 28.4      | 61.6 |

ている。そこで、まず学校別に特徴的な部分をピックアップしておこう。

(1) A校

- 「1. 先生も遅刻しないで」の賛成者がやや少ない。
- 「2. 遅刻するのは自分の意志が弱いから」の賛成率が4校中最高である。
- 「4. 家庭に責任」「6. 受験勉強・アルバイトのためならやむをえない」には「反対」が多い。

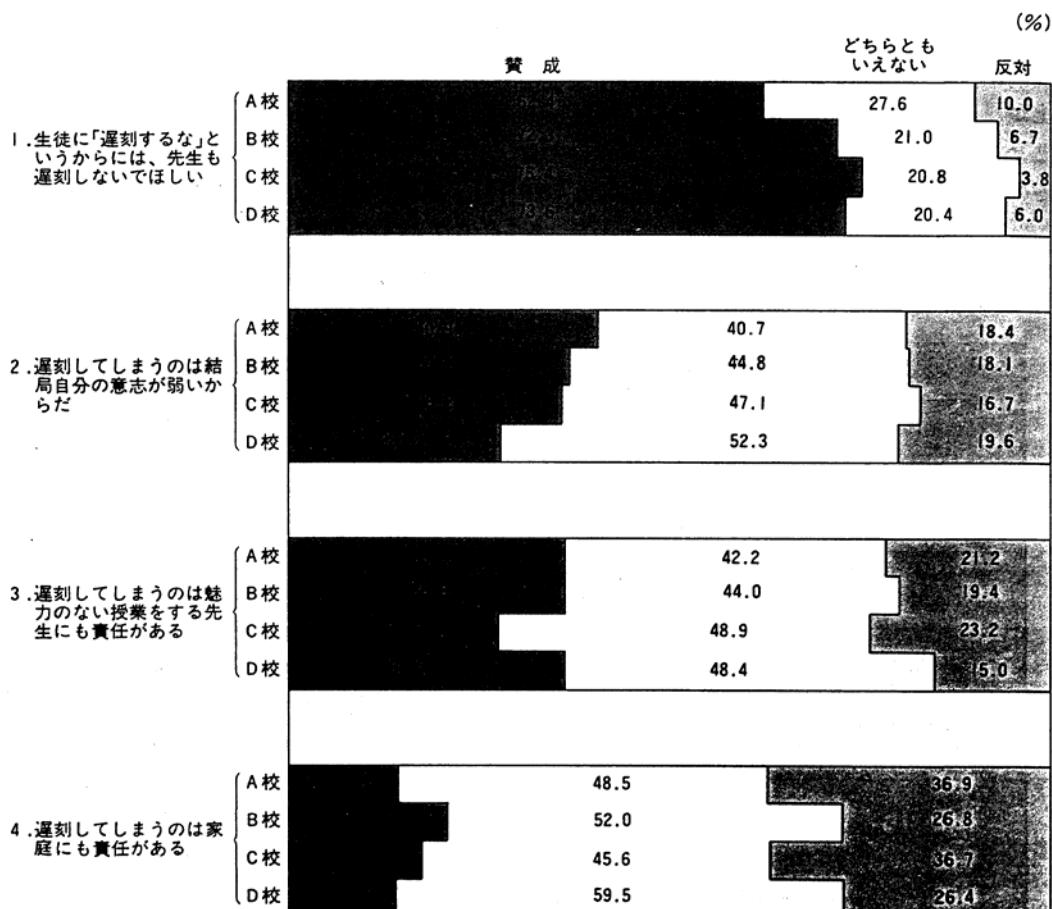
(2) B校

- 「4. 家庭にも責任」の賛成率がやや高い。
- 「5. 30分遅れたら欠席」には賛成しない。
- 「6. 受験勉強・アルバイトのためなら」の賛成者がやや多く、反対者は少ない。

(3) C校

- 「3. 魅力のない授業にも責任」とはあまり考えない。

図16 遅刻についての意見×学校別



\* 次頁へつづく

- 「6. 受験やアルバイトのためなら」には反対が多い。

(4) D校

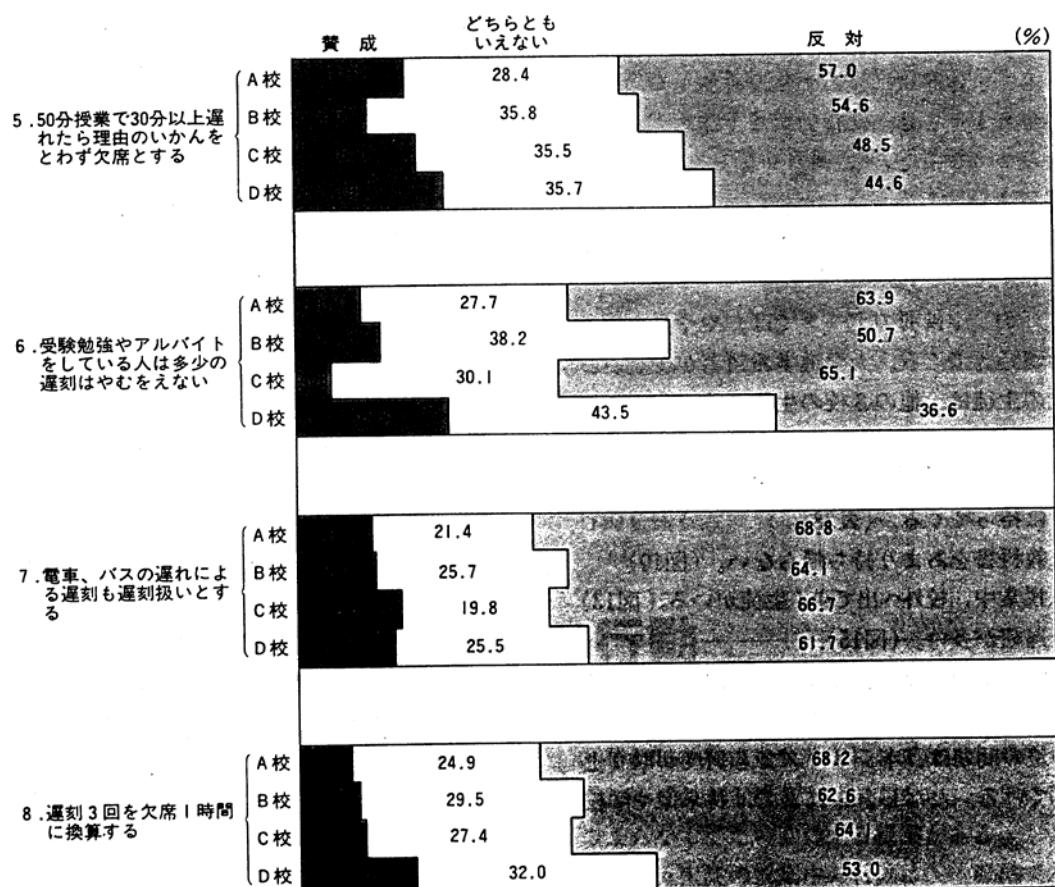
- 「2. 自分の意志が弱いから」の賛成率が低い。
- 「5. 30分遅れたら欠席」「8. 遅刻3回で欠席1時間」の「賛成」がやや多く、「反対」が少ない。
- 「6. 受験勉強・アルバイトのためなら」

の賛成者が多い。

以上の結果には、各校の生徒のキャラクターが反映されているように思える。A校の生徒は、外出経験・遅刻回数で見る限り、多少ゆるんだ面が感じられる。しかし、意識面では、遅刻の責任を他に求めず、自分の意志の問題ととらえ、しっかりしたところを見せていている。

B校の生徒は、受験のためなら多少のこと

図16 遅刻についての意見×学校別



は許してほしい、と思っているように見える。

C校の生徒には、遅刻に言証を認めない意志が感じられる。「とにかく遅刻は悪い。」この考え方を、いちばん素直に受け入れるのは、C校の生徒かもしれない。

D校の生徒は、学校側のきびしい処置を肯定する傾向にある。これは、「学校が甘やかすから、生徒は遅刻するのだ」という発想に

つながるような気がする。自分で自分の行動を律するのではなく、外から管理されるのに慣れています。このような反応が、少し気にかかる。

以上の分析は、多少データを深読みしそうな部分もあるかもしれません。そこで、最後にもう一度この章のデータ全体をふり返って、学校間の差異を検討しておきたい。

## 5. 学校差の背景にあるもの

この章は、生徒の校内行動に逸脱的な志向はないか、という観点から出発している。そして、全体的には、あまり逸脱的な方向には向かわず、まじめに行動する生徒のようすが明らかになった。(表26、図9、表29、図12) 遅刻は少し多かったものの、遅刻についての意識はそれなりに健全なものであった。(表30)

だが、学校別のデータでは、やや異なる面が見えてくる。大学進学希望者が少ないD校の生徒は、他の3校の生徒と比べ、次の傾向が見られた。

- さまざまなおしゃれ・娯楽用の道具を学校に持ってくる。(表28)
- 教科書をあまり持ち帰らない。(図10)
- 授業中、校外へ出てゆく生徒が多い。(図13)
- 遅刻が多い。(図15)

いうまでもなく、これらの傾向は、学校間格差構造との関連でよく理解できる。学校間格差の問題は、本シリーズでも何度か取り上げている。ただし、これまで将来像や学校

への愛着といった意識面が主で、行動についてのデータはあまりなかったように思う。今回は、図らずも、行動のレベルで格差のもたらすものをストレートに見せつけられた気がする。

一方、学校間格差の視点では理解できないデータもある。同じ進学校でも、A校とB校の間では、いくつか対照的な結果がある。

|               | A校  | B校  |
|---------------|-----|-----|
| 外出            | 73% | 31% |
| 回数「何回も」       | 28% | 10% |
| 目的「なんとなくブラブラ」 | 28% | 53% |
| 遅刻「1回もない」     |     |     |

A校の生徒は、よくいえば自由人、悪くいえばルーズという印象を受ける。B校の生徒は、A校と比べかなり優等生的といえる。両校生徒のカラーの違いは、おそらく、規則の内容、教師の生徒への接し方、これらを含んだ学校全体の雰囲気などが反映しているのであろう。この点は、機会をあらためて、くわしく検討したいテーマである。